

ペンタサ服用 9 年目で免疫抑制剤に
恐怖を感じ松本医院を受診された方。

「自分の免疫の遺伝子で治す（経過報告）」

匿名希望 34 歳

2016 年 12 月 2 日

私が潰瘍性大腸炎と診断されたのは 2007 年でした。当時のことはほとんど忘れてしまったのですが、強烈な腹痛とともに大量の粘血便が出たので病院に行き、後日、大腸内視鏡検査をして、全大腸型の潰瘍性大腸炎と診断されました。ペンタサという薬を処方されました。

数日後に症状が楽になったので薬が効いたのだと思い、その後 9 年間毎日まじめにペンタサを飲み続けました。発病の原因は学生生活の終わり頃にストレスがあり、就職してからもストレスがあったからだと思います。最初に診てもらった病院は大きめの総合病院でしたが、待ち時間が長いのと、原因不明の難病ということで治すことを諦め、とりあえずペンタサを飲んどけば良いと思い、近所の待ち時間の少ない病院に行っていました。特定疾患で薬代がタダなので、免疫抑制剤を飲み続けることの恐ろしさも知らずに飲んでいました。切れ痔もあったので痔の軟膏も初めはタダでもらっていました。

9 年間のうちに症状が酷くなり出血することも何回かありました。2015 年の 6 月に肛門周囲膿瘍になり必死に痔の病院をネットで探していた時にたまたま松本医院の HP を見つけました。潰瘍性大腸炎完治と書いていましたが、その時は内容を読むことはしなくて、とりあえずパソコンのお気に入りサイトに追加しておきました。肛門周囲膿瘍はⅢ型の痔瘻になりました。痔瘻は同年 8 月に京都の病院でシートン法の手術をして完治しました。痔瘻の原因を後になって考えますと使っていた痔の軟膏が、強力ポステリザン軟膏というステロイド入りの薬で、使用することによって肛門周囲の免疫が働かなくなり、細菌に感染したからだと思います。

2016 年の 5 月頃に下痢が続くようになりました。6 月に会社の勧めで献血に行きましたが、血液検査でわずかな貧血の為に献血を断られました。何日か後に 2 回行きましたがやっぱり貧血でした。そのときに体の中で良くないことが起こっていると思われるので、しっかりと潰瘍性大腸炎を治さないといけないと思いました。松本医院を思い出し HP を見てみると、理論は理解できま

せんでしたが、場所が高槻で私の住んでいる京都から近く、土日もやっているので行くことを決心しました。もし松本医院が東京にあって平日しかやっていなかったら私の潰瘍性大腸炎は一生治らない病気になっていたことでしょう。

初受診は緊張しましたが、松本先生から「病気はひどくない。今日からペンタサを飲むのを止めろ。治るよ。」と言われほっとしました。お灸のやり方を教えてもらい、漢方の煎じ薬をもらって帰りました。漢方は、最初はまずくて吐き気がしていましたが、水で味が分からなくなるまで薄めて飲んでみると、そのうち慣れて、そのままがぶがぶと飲めるようになりました。毎日、漢方を飲んでお灸をやって、松本医院のHPを読んで仕事でストレスを溜めないようにしていると、どんどん免役が上がっていきました。初診時（6月）28だったリンパ球が1ヶ月後に36に、2ヶ月後に41に、3ヵ月後に45になりました。リンパ球が40を超えた時は先生から「治すカバリバリやんけ。」と言われました。クラススイッチは7月に両手首にアトピーが出てきたことです。リバウンドで、ほとんど毎日下痢便か泥状便でしたので漢方の断痢湯を飲み続けていますが、10月末に便秘の症状が出るようになり、最近では固まってきています。9月に体のだるさ、しんどさを訴えた時は「ヘルペス」が原因の為、アシクロビルを2週間分もらって良く効きました。松本医院に行くと「病気は誰が治すんや？」とよく訊かれます。初めは「自力で治します。」と答えていましたが、最近ようやく「自分の免役の遺伝子が治します。」と答えられるようになりました。記憶に残った先生の言葉は「怖い病気はない、癌は病気ではない。」です。

最後になりましたが、松本先生をはじめとした松本医院の皆様いつもありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。